



目標 7 チャレンジ精神と新たな価値の創造により、地域経済が活性化している

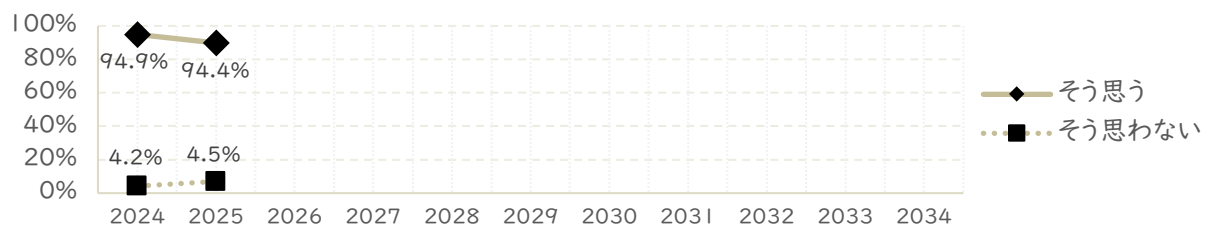
<めざす姿>

- 地場中小企業において、多様な人々がいきいきと働き、特徴ある製品やサービスが生み出されるとともに、農水産物の消費拡大やブランド化が進むなど、様々な産業で競争力が高まり、地域経済が活性化しています。
- スタートアップが互いに交流するとともに、地場中小企業や学生など多様な主体と連携しながら成長し、新たな価値を生み出すなど、チャレンジする人材が活躍しやすいまちになっています。
- チャレンジ精神のある多様な人材や企業が国内外から集積するとともに、産学官民の連携が進み、様々な社会課題を解決する先進都市になっています。

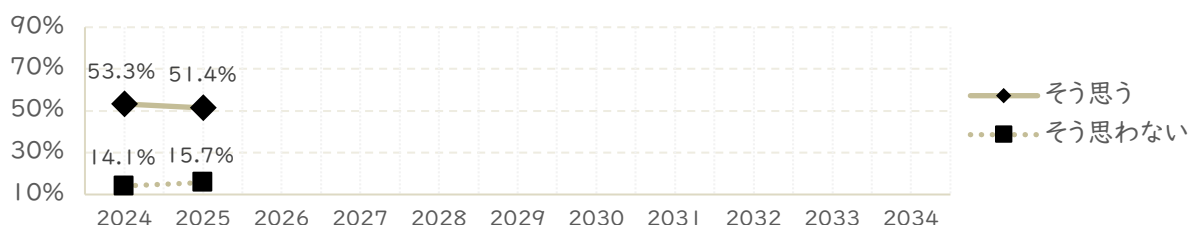
市民意識	そう思う (「どちらかと言えば そう思う」を含む)	そう思わない (「どちらかと言えば そう思わない」を含む)	わからない
(1) 野菜や魚など、新鮮でおいしい農水産物を食べることができる	94.4%	4.5%	1.1%
(2) スタートアップなど、新しいことにチャレンジしやすい	51.4%	15.7%	32.9%
(3) 市内の企業や大学などが連携し、先端技術の活用が進んでいる	48.6%	15.0%	36.4%

出典：福岡市基本計画に係る意識調査

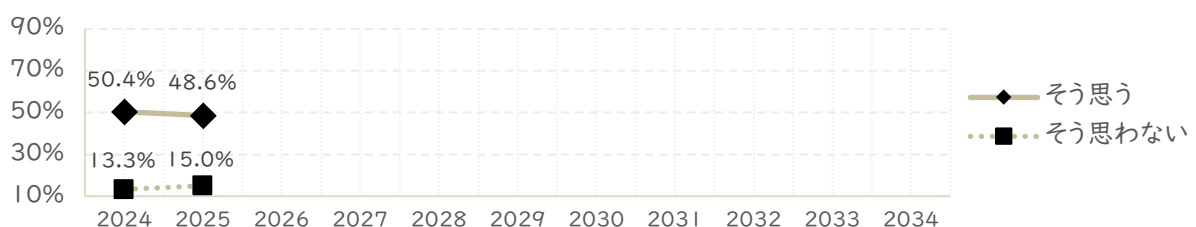
(1) 野菜や魚など、新鮮でおいしい農水産物を食べることができる



(2) スタートアップなど、新しいことにチャレンジしやすい



(3) 市内の企業や大学などが連携し、先端技術の活用が進んでいる



施策7-1 地場中小企業の競争力強化などによる地域経済の活性化

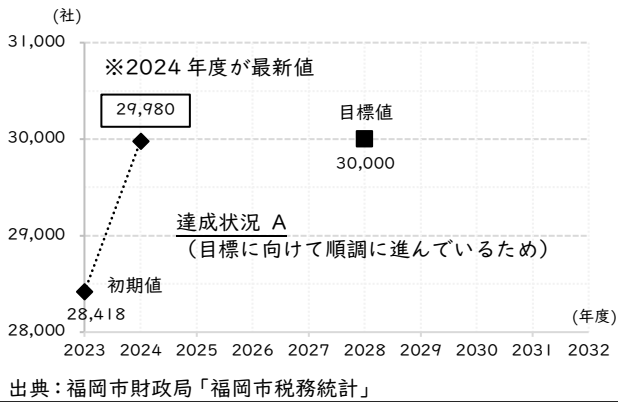
<取組みの方向性>

地場中小企業に対し、融資や販路開拓、人材確保、生産性向上、事業承継などの支援を行い、競争力・経営基盤の強化を促進します。

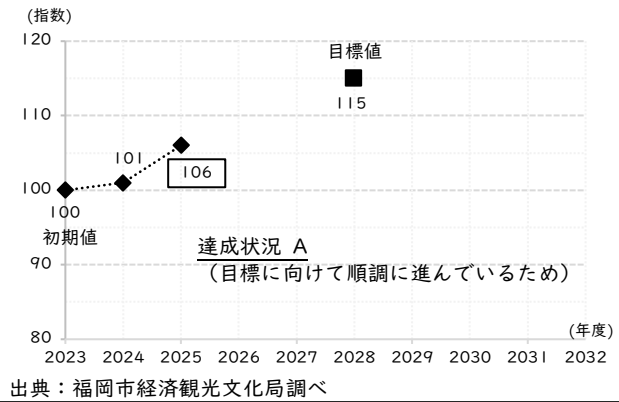
また、賑わいと魅力のある商店街づくりや、福岡市の歴史・文化を継承する伝統産業の振興などに取り組み、地域経済の活性化を図ります。

1 施策の指標

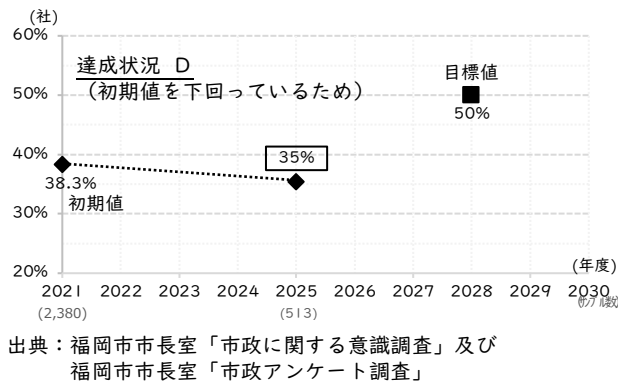
①法人市民税（法人税割）の対象法人数



②商店街の年間来街者指数(2023年度を100とする)



③福岡・博多にゆかりのある伝統工芸品の認知度



<指標の分析>

①の法人市民税（法人税割）の対象法人数については、2023年度から2024年度にかけて5.5%増加し、黒字となった企業は増加しているが、原油価格・物価高騰の影響が長期化しており、今後も注視が必要である。

②の商店街の年間来街者指数については、緩やかな増加傾向である一方、「商店街役員の担い手不足」、「若手不足」などの課題があることから、商店街における人手不足に対する支援施策が必要である。

③の伝統工芸品の認知度については、国指定の伝統的工芸品である博多織と博多人形の認知度は90%前後を維持しているが、博多曲物や博多張子をはじめとした福岡県知事指定特産民工芸品の認知度は低い現状にある。この点を考慮し効果的な広報・認知度向上のための販路拡大支援に取り組んでいく。

2 事業の進捗状況、指標等を踏まえた「施策の評価」

○：概ね順調	(参考) 前年度の評価 —
---------------	-----------------------------

3 事業の指標・進捗状況・課題・今後の方向性

●中小企業のチャレンジ支援

中小企業の経営基盤の強化				
指標	初期値	最新値	目標値	達成状況
法人市民税（均等割）の対象法人数	65,499 社 (2023 年度)	67,768 社 (2024 年度)	73,000 社	A
【進捗状況】 ・中小企業サポートセンターにおける経営、金融、受発注、返済に関する相談及び専門家派遣による診断助言等を実施。（R7n：相談件数 3,600 件、専門家派遣 7 社 24 件） ・事業所へのアンケート調査により、景況感を把握するとともに、市の中小企業支援施策や関係機関の窓口を案内。（R7n：8,000 件） ・中小企業の経営基盤の安定化や資金繰りの円滑化等を図るため、長期・低利・固定金利の事業資金の融資を実施。（R7n：新規融資 41,124,245 千円）				
【課題】 ・物価高や人手不足など、中小企業・小規模事業者の経営環境が厳しい状況にあることを踏まえ、経営相談・診断助言等により、経営の安定を図る必要がある。				
【今後の方向性】 ・市内中小企業・小規模事業者のニーズの把握や市の支援施策の周知に努めるとともに、商工会議所と連携して経営課題の解決に向けた取組みを支援する。また、経営改善計画の策定が困難な事業者や資金繰りに窮する事業者については、抜本的な再生支援のため、福岡県中小企業活性化協議会につなぐなど、事業者の状況に適した支援を実施する。				

中小企業の人手不足対策				
指標	初期値	最新値	目標値	達成状況
人員体制について「過不足なし」と回答した事業者の割合	23.3%	27.0%	30%	A
デジタル化による業務効率化やビジネスモデルの変革等に取り組んでいる市内中小企業の割合	35.6%	35.2%	50%	D
【進捗状況】 ・デジタル化の進展を目的としたセミナーやデジタル化進捗状況を診断する機会の提供、デジタルツールを活用できる人材育成講座の開催、専門家の伴走支援により、中小企業のデジタル化を支援した。 *セミナー参加者数 R7n:152 人 人材育成講座参加企業数 R7n:60 社 *伴走支援社数 R7n:60 社				
【課題】 ・IT・デジタル技術の導入に取り組む市内中小企業は着実に増加している一方、導入に取り組んでいないまたは初歩的な取組みに留まっている市内中小企業が半数以上を占めており、デジタル化の進捗状況に格差が生じていることから、生産性向上に向けた取組みの余地がある。				
【今後の方向性】 ・デジタルツールの導入・活用をはじめとした業務効率化を支援することで、中小企業の生産性向上を支援する。				

脱炭素経営・ビジネスの促進				
指標	初期値	最新値	目標値	達成状況
脱炭素化に取り組む地場中小企業の割合	19.2%	12.6%	50%	D
【進捗状況】 ・脱炭素に資する環境ラベル等を取得している市内中小企業に対し、展示会出展等による販路拡大を支援した。 *支援企業数 R7n：13 社 *脱炭素経営セミナー参加者数 R7n：224 人				
【課題】 ・脱炭素化に向けた動きが産業界全体に広がる中、市内中小企業も、取引先企業や金融機関、消費者などから調達、製造、流通等様々な場面における CO2 排出削減に向けた取組みや脱炭素経営への転換が求められている。				
【今後の方向性】 ・企業が脱炭素に取り組むことは、光熱費・燃料費の低減につながるだけでなく、認知度向上や自社製品の競争力強化、人材獲得力の強化などにつながることから、先駆的に取り組む中小企業の販路拡大と、脱炭素分野に関心の高い人材の確保・定着を一体的に支援する。				

女性活躍の推進〈再掲1-1〉				
指標	初期値	最新値	目標値	達成状況
「ふくおか女性活躍NEXT企業見える化サイト」登録企業における女性管理職比率	19.8%	21.2%	23%	A
企業向けセミナー等の参加者数	163人	131人	180人	D
【進捗状況】 ・女性活躍に取り組む企業を紹介する「見える化サイト」の運営（H28.8開設） ＊登録企業数 R6n：373社 → R7n：392社 ・健康課題等と仕事の両立支援事業 ＊企業への伴走型支援 R6n：10社 → R7n：10社 ・女性活躍の課題解決に向けた取組みの支援 ＊ふくおか女性活躍ナビの作成 ・男性の育児休業取得促進事業 ＊男性の育休取得の手引き等の情報発信 ＊家事・育児シェアシートの配布 R6n：約4,400部 → R7n：約4,200部 ・再就職を目指す女性向け講座の実施 ＊就職支援セミナー R6n：参加者53人 → R7n：参加者55人 ・リーダーを目指す女性向け講座の実施 ＊女性のキャリア形成支援セミナー R6n：参加者36人 → R7n：参加者23人 ・起業を目指す女性向け講座の実施 ＊女性のための起業ゼミ、女性の起業スキルアップセミナー R6n：参加者60人 → R7n：参加者49人 ＊女性のための起業等支援（ライフシフト）セミナー R6n：参加者30人 → R7n：参加者25人 ・アミカス×スタカフェ交流会（起業者交流会）の開催 ＊R6n：参加者16人 → R7n：参加者21人 ・女性活躍推進に関する企業向け講演会の開催 ＊R6n：参加者127人 → R7n：参加者108人 ・社会貢献優良企業優遇制度（次世代育成・男女共同参画支援事業）の実施 ＊認定企業数 R6n：233社 → R7n：235社				
【課題】 ・働く場における女性の活躍を推進していくためには、これまでの働き方を見直し、長時間労働の是正や有給休暇の取得促進など、企業における働きやすい環境づくりが重要。 ・性別にかかわらず教育、昇進等の機会と待遇が均等に確保されるなど、誰もがそれぞれに望むキャリアパスを描いて働き続けることができるよう、企業への啓発や支援に取り組む必要がある。				
【今後の方向性】 ・女性活躍推進法及び「福岡市働く女性の活躍推進計画（第3次）」（福岡市男女共同参画基本計画（第5次））に基づき、女性の活躍を推進していく。 ・健康課題等と仕事の両立について、企業への啓発・支援に取り組む。 ・企業における女性活躍の取組み等を見える化し課題解決のアドバイスを行う「ふくおか女性活躍ナビ」の活用を推進する。 ・企業における男性の育児休業取得促進など、共働き・共育での推進に取り組む。 ・ダイバーシティをテーマとする講演会を開催し、企業における女性活躍への取組みを支援する。 ・企業における女性活躍への取組みについて、「見える化」の推進などに取り組む。 ・働く女性のキャリア形成支援及び再就職等を目指す女性のための講座や交流機会の提供に取り組む。				

地場企業の海外展開支援〈再掲8-2〉				
指標	初期値	最新値	目標値	達成状況
商談件数	744 件 (2015～2024 年度平均)	929 件	800 件	A
福岡市国際ビジネス展開プラットフォーム 会員企業との連携活動件数（累計）	51 件	60 件	69 件	A
【進捗状況】 ・地場企業の海外販路拡大や、外国企業とのビジネス連携を支援するために、福岡アジアビジネス支援委員会の活動や福岡フードビジネス協議会の運営支援、姉妹都市の関係等を活かした商談会、情報提供のためのセミナーなどを実施。 ＊商談件数 R6n：898 件 → R7n：929 件 ＜商談件数内訳＞ 国内外展示会 2 件／商談件数 734 件 商談会開催等 4 件／商談件数 195 件 ＊セミナー開催 R6n：3 回 → R7n：4 回 ・海外での官民連携ビジネス展開をめざして設立した「福岡市国際ビジネス展開プラットフォーム」の枠組みを活用し、グリーンテック分野の地場企業のビジネス機会創出に向けた取組みを推進。				
【課題】 ・アジアのビジネス環境が大きく変化する中で、国際ビジネスを展開する企業のニーズが多様化しており、市単独では支援に必要な資源やノウハウの確保が困難。 ・グリーンテック分野企業の海外展開では、顧客探し以外にも価格面や法規制、物流、代金回収など解決しなければならない課題が多く、成功までに時間を要する。				
【今後の方向性】 ・国際ビジネス支援を行う関係団体等との連携を深め、情報・サービスを相互に活用しながら、企業のニーズに応える支援を実施する。また、これまでに培った外国企業・団体との繋がりを活かし、地場企業にビジネスの機会を提供する。 ・海外ネットワークを充実して、企業が直面する様々な問題の解決を支援するとともに、企業が海外活動を継続できるよう国等の補助金獲得を支援する。また、これまでに蓄積したノウハウを、新たな産業分野の支援にも転用する。				

●賑わいと魅力のある商店街づくり

商店街の活性化に向けた支援				
指標	初期値	最新値	目標値	達成状況
市の支援メニューを活用した延べ商店街数 ※臨時交付金活用事業を除く	59 商店街 (2023 年度)	156 商店街	230 商店街 (2025～ 2028 年度)	A
【進捗状況】 ・地域資源の活用や生活の安全・安心など社会的課題の解決に向けた取組みを行う商店街を支援した。 *商店街社会課題解決型補助金活用商店街数 R6n：3 商店街 → R7n：5 商店街 ・商店街を担う人材を育成するため商店街関係者を集めた勉強会を開催した。 *商店街 NEXT チャレンジャー育成事業勉強会参加者数 R6n：35 人（募集定員：30 人）→ R7n：23 人（募集定員：20 人） ・市民にとって身近な地域の経済活動を促進し、域内の消費回復に取り組むために、商店街のプレミアム付商品券発行を支援した。 *発行団体数（利用可能商店街数） R6n：41 団体（73 商店街）→ R7n：64 団体（100 商店街）				
【課題】 ・R7n に実施した商店街実態調査で挙げられた課題として、「役員の担い手が不足している」や「次世代を担う若手がない」が依然として多い。				
【今後の方向性】 ・支援メニューの活用促進に加え、人手不足対策として、商店街における人手の確保、人材の育成、組織運営の生産性向上をこれまで以上に支援していく。				

●伝統産業の振興

伝統工芸品の販路拡大と技能継承				
指標	初期値	最新値	目標値	達成状況
博多織技能開発養成学校卒業生のうち伝統工芸士に認定された人数（累計）	13 人	14 人	17 人	A
【進捗状況】 ・はかた伝統工芸館は、R7 n 当初に博多部へ仮移転のうえ常設工芸体験コーナーを新設、周辺の観光客の誘客を図るとともに、博多部をはじめとする市内各地で市民が工芸品に親しめる場の創出に取り組み、工芸品の認知度向上、販路拡大を図った。 ・異分野・異業種の技術やアイデア等を取り入れた新商品・新サービスの開発を行った。市内ホテル事業者と連携のもと、それらの商品を取り入れた「福岡伝統工芸ルーム」を発表し、新たな市場への開拓なども支援した。 ・R7n までに博多織デベロップメントカレッジは、87 名が卒業、博多人形師育成塾は 399 名が修了し、公募展での入賞や伝統工芸士も誕生するなど、技能の継承がなされている。				
【課題】 ・生活様式の変化による需要低迷や、事業者の多くが零細企業であることなどにより、伝統産業は厳しい状況にある。 ・伝統工芸における後継者確保が課題である。				
【今後の方向性】 ・伝統工芸に関する情報発信のウェブサイトを充実させ、人気のイベントや展示会で伝統工芸品を見る、触れる、使う、体験する機会を提供することで、観光客への販路拡大を図る。 ・伝統産業の振興と伝統的な技能の継承を図るため、次世代の博多織を担う人材を育成する「博多織技能開発養成学校」を支援していく。				

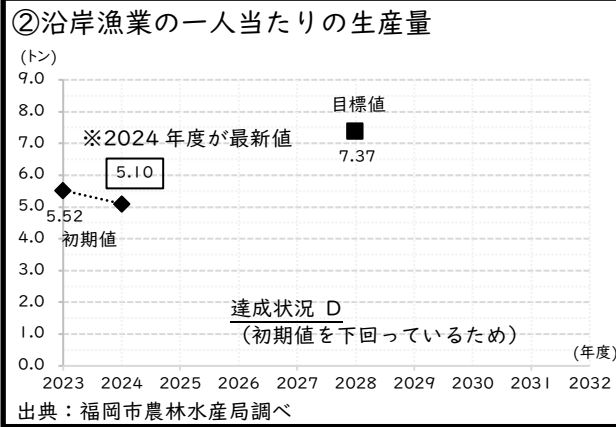
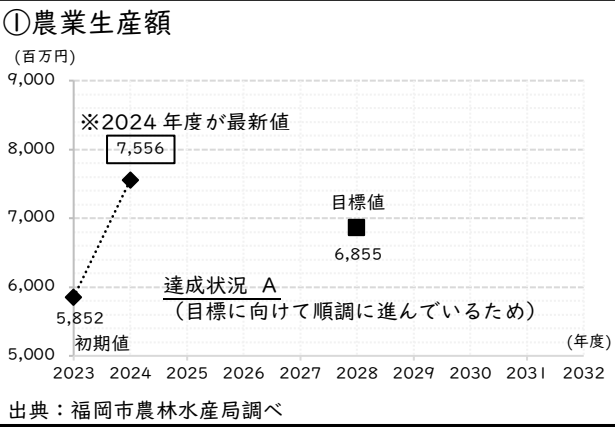
施策 7-2 農林水産業とその関連ビジネスの振興

＜取組みの方向性＞

新鮮で安全な農水産物を市民に安定供給するため、農林水産業の担い手づくりやスマート化などにより経営の安定化を図るとともに、農地、漁場などの生産基盤の保全・強化、中央卸売市場の活性化などに取り組めます。

また、民間活力を生かした新たな魅力の創出や食のブランド化を推進し、食品の製造や流通などの関連産業の振興を図ります。

1 施策の指標



＜指標の分析＞

①については、全国的な米価高騰により、米の生産額が急増したこと、鳥インフルエンザ等の影響で減少していた畜産の生産額が大きく回復したことにより、農業生産額が増加した。

②については、海洋環境の変化等の影響から厳しい状況にある漁場環境の改善や、生産基盤の強化等に取り組んでいるものの、減少傾向。ただし、魚価は上昇傾向にあり、一人当たりの生産額は概ね横ばいで推移している。

2 事業の進捗状況、指標等を踏まえた「施策の評価」

○：概ね順調	(参考) 前年度の評価 —
--------	------------------

3 事業の指標・進捗状況・課題・今後の方向性

●経営の安定化と生産基盤の保全・強化

農業の振興				
指標	初期値	最新値	目標値	達成状況
新規就農者数	25 名 (2023 年度)	20 名 (2025 年度)	現状維持 (25 名程度を維持)	D
スマート農業の導入件数（累計）	28 件 (2023 年度)	58 件	48 件	A
【進捗状況】 ・新規就農者の確保・育成を図るため、新規就農希望者からの相談対応や農業研修を実施。 ＊就農相談件数 R6n：162 件 → R7n：137 件 ＊アグリチャレンジ（農業研修）受講生数 R6n：28 名 → R7n：44 名（延べ人数） ・スマート農業については、機械導入時の補助や、福岡市と市内 2 J A で構成されるスマート農業推進協議会において、実証実験を実施。				
【課題】 ・新規に就農する場合、栽培技術の習得や農地の確保、機械・施設の購入資金調達などの課題がある。 ・スマート農業については、市内農家のニーズに合ったスマート農業技術が少ない。				
【今後の方向性】 ・新規就農者の確保・育成については、引き続き、市の就農相談窓口や、県などが主催する就農相談イベントにも出展し、市内就農の魅力を P R するとともに、関係機関と連携して、農業研修による技術の習得などの支援を行っていく。 ・スマート農業については、引き続き、生産現場の課題把握に努め、スマート農業技術を有する企業と生産者のマッチングや、生産現場での実装に向けた支援を実施する。				

豊かな森づくりの推進〈再掲 4-1〉				
指標	初期値	最新値	目標値	達成状況
広葉樹等への植替え面積（累計）	17ha	41ha	112ha	A
【進捗状況】 ・花粉発生源であるスギ・ヒノキ人工林の削減に向けて、市営林（水源かん養林含む）について、植替えによる広葉樹林化や間伐による針広混交林化を実施し、脱炭素社会の実現に寄与するとともに、私有林の伐採を促進するため、林業機械のレンタル・リース費や伐採木の運搬経費に対する補助を開始。また、伐採した木材は公共建築物等の内装材などに活用している。 ＊R6n：17ha→R7n：41ha（うち水道局 R6n：3ha→R7n：8ha）				
【課題】 ・私有林の伐採や植替えが継続して行われるよう、引き続き、林業経営を支援していく必要がある。 ・花粉発生源であるスギ・ヒノキ人工林の削減や、水源かん養林の機能向上を図るために、計画的に整備する必要がある。				
【今後の方向性】 ・スギ・ヒノキ人工林の 10 年 2 割削減（R6～R15）に向けて、市営林（水源かん養林含む）の広葉樹林化や針広混交林化を進めるとともに、私有林の林業経営の支援を継続する。また、伐採木を公共施設や民間施設に活用することで、地域産材の利用拡大につなげる。				

水産業の振興				
指標	初期値	最新値	目標値	達成状況
漁業就業者数（沿岸漁業）	446 名 (2023 年)	426 名	424 名	D
新たな「海業」の取組件数	—	2 件	8 件	A
【進捗状況】 ・ 漁業就業者数（沿岸漁業）については、新規就業から5年度以内の漁業者への補助、市漁協内の新規就業者受入に向けた合意形成支援等の採用体制づくりに取り組んでいる。 ・ 海業の推進については、志賀島漁港において、志賀島センターにおける地元水産物等を販売する直売所や飲食店へのリニューアルと中間育成施設における種苗生産施設への再整備が民間活力の導入により進められている。				
【課題】 ・ 漁業就業者（沿岸漁業）の確保については、不安定な魚価及び海洋環境の変化に伴う漁獲量の減少や、燃油代の高騰などから、漁業の魅力が低下している。新規就業者のうち、その多くは地元出身者で、家族や親族など縁故に基づく就業がほとんどである。 ・ 海業の推進にあたっては、国の基本方針において、「漁業利用に支障を及ぼさないための措置や漁業者等の意見聴取等の合意プロセスが必要」とされ、漁業活動に支障を及ぼさないことが前提となることから、漁業関係者の意見を伺いながら、慎重に検討を進める必要がある。				
【今後の方向性】 ・ 新規就業者確保・定着に向けて、漁業の魅力を発信する動画等を活用し、職業としての魅力・意欲の掘り起こしから就業・着業後の支援までの一体的な仕組みの構築に、漁協と調整を図りながら取り組んでいく。 ・ 今後、海づり公園緑地部等の活用に向けた事業者の選定や陸上養殖等への地下海水の活用可能性調査を実施するなど、漁村地域の活性化に向け、新たな海業の取組みを推進していくこととしている。				

●食のブランド化と消費拡大

農水産物の消費拡大・ブランド化推進				
指標	初期値	最新値	目標値	達成状況
水産物のブランド化品目数	1品 (2023年度)	1品	2品	C
【進捗状況】 ・学校給食への市内産農水産物の活用や市民が農業・漁業へ触れる機会の提供 ＊学校給食における市内産農産物利用割合 R6n：26.5% → R7n：28.6% ＊魅力ある市内産農水産物を学校給食へ提供 博多和牛、ブリ、博多あまおう ＊農産物産地見学会 R6n：4回 → R7n：4回、漁業体験 R6n：1回 → R7n：1回 ・ふくおかさん家のうまかもん条例に基づく販路拡大の推進 ＊農産物については、発信力のある飲食店等の料理人などを産地に招聘し、メディアを通じた情報発信。 ＊水産物については、国内外の高級飲食店の料理人やバイヤーを招聘するなど、販促活動を実施。特に、「唐泊恵比須かき」については、R6.10に国際認証「MEL」を取得後、R7.12に香港への出荷において、月間最高個数を記録。 ・花きについては、高付加価値化に向け、農業者と花関連事業者との交流会や消費拡大及び認知度向上のためのPRイベント等を実施。				
【課題】 ・農産物については、市内で生産されていることの認知度が依然として低く、また、スーパーなどの小売店で市内産表示を見かけることが少ない。 ・水産物については、シンガポールにおける販売店舗数とシェフ招聘の取組みが、香港と同等まで展開できていない。 ・花きについては、高付加価値化、消費拡大及び認知度向上の推進には一定の期間を要し、継続的な取組みが必要である。				
【今後の方向性】 ・農産物については、様々なメディアを通じた情報発信を継続するとともに、スーパーなどの小売店での市内産表示を促進する。 ・水産物については、香港だけでなく、複数の地域での販売先の展開を調査・検討する。また、海外PRにおいて、販促活動や海外シェフ・バイヤーの招聘を推進する。 ・花きについては、引き続き交流会等の開催を通じて、農業者が高付加価値化につながる気づきを得る機会を提供するとともに、消費拡大及び認知度向上のためPRを実施する。				

市場の活性化				
指標	初期値	最新値	目標値	達成状況
鮮魚市場・市民感謝デー来場者	17,000 人 (2023 年度)	20,700 人 (2025 年度)	現状維持 (17,000 人 程度を維持)	A
青果市場・ベジフル感謝祭来場者	12,000 人 (2023 年度)	12,200 人 (2025 年度)	現状維持 (12,000 人 程度を維持)	A
【進捗状況】 ・鮮魚市場において、市場開放イベント「市民感謝デー」を実施。 *市民感謝デー来場者数 R6n：23,300 人 → R7n：20,700 人 ・青果市場において、市場開放イベント「ベジフル感謝祭」を実施。 *ベジフル感謝祭来場者数 R6n：12,200 人 → R7n：12,200 人 ・鮮魚市場の機能更新・向上事業において、活性化ゾーンを創出し、魚食普及に資する活性化施設の整備に市場関係者と連携し取り組んでいる。 *R6n：市場関係者による魚食普及推進施設「うおざ」が開業 R7n：旧東冷蔵庫棟を活用した活性化施設について、民間ヒアリングを実施しながら、民間活力を導入した事業概要を取りまとめた。				
【課題】 ・市民感謝デーについては、来場者に楽しんでもらい魚食への関心を高めてもらうため、福岡魚食推進協議会で協議しながら、当イベントの継続実施に努めていく必要がある。 ・ベジフル感謝祭については、市民に親しまれる市場となるよう、ベジフルスタジアム活性化委員会で協議しながら、当イベントの継続実施に努めていく必要がある。 ・旧東冷蔵庫棟を活用した活性化施設については、食はもとより、天神から少し離れているという立地特性や長浜周辺に集積する機能の状況を踏まえ、新たな人流の創出や長浜エリアの魅力向上に取り組む必要がある。				
【今後の方向性】 ・引き続き市民感謝デーの開催、節目をとらえた記念イベントやその他特別イベントの実施、市政だより・ホームページ・SNS・情報誌・メディアの活用による積極的な広報活動等に努めていく。また、今後整備予定の活性化施設との連携も検討していく。 ・ベジフル感謝祭を継続して開催するとともに、節目等をとらえた特別イベントの実施、市政だより・ホームページ等の活用による積極的な広報活動等に努めていく。 ・旧東冷蔵庫棟を活用した活性化施設については、新たな賑わいを創出し、長浜エリアの魅力をつなぎ、福岡・九州の食の魅力を発信する「食の新スポット」を創出するため、魅力的な提案を引き出せる公募を実施し、関係局とも情報交換しながら R8n の優先交渉権者の決定を目指す。				

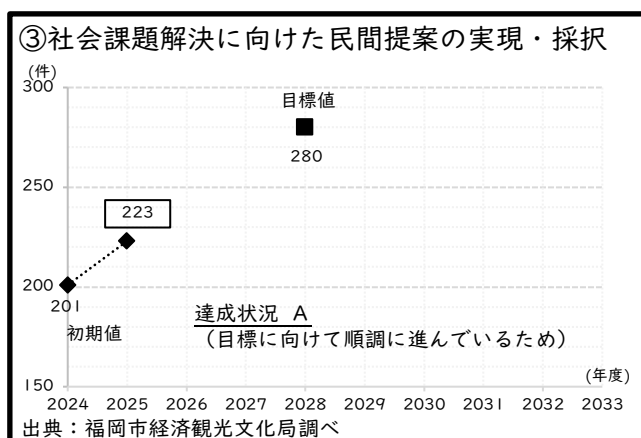
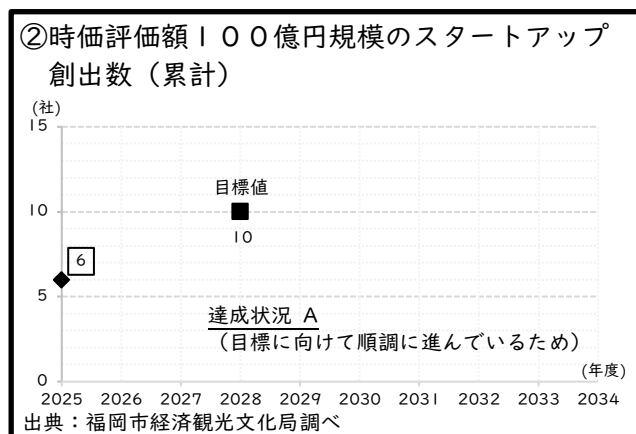
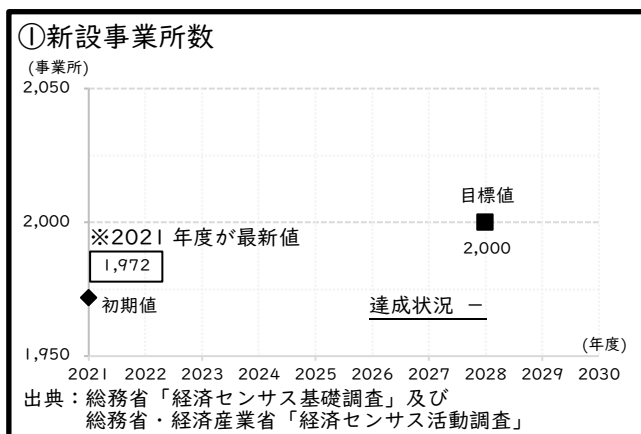
施策 7-3 新たな価値の創造とスタートアップ都市づくり

<取組みの方向性>

様々な分野でチャレンジする人材や企業が国内外から集まり、交流するスタートアップ都市づくりを進め、創業の裾野を広げるとともに、地場中小企業や学生など多様な主体との連携を促すなど、成長を支援します。

また、官民が連携し、AI や IoT 等の先端技術を活用しながら新たな価値を創造するなど、多様な手法による社会課題の解決に取り組みます。

I 施策の指標



<指標の分析>

①については、2016 年から引き続き目標値を上回っており、Fukuoka Growth Next、スタートアップカフェなどの創業支援の取組みが指標の順調な推移に表れていると考えられる。なお、2016 年は新設事業所の定義変更に伴い全国的に増加している。

②については、スタートアップ都市・ふくおか宣言以降、国家戦略特区の活用や官民共働スタートアップ支援施設 Fukuoka Growth Next を核とした各種スタートアップ支援施策により、時価評価額が 100 億を超える企業が着実に育っている。

③については、順調に推移しており、社会課題等の解決に向けた支援に繋がっているものと考えている。

2 事業の進捗状況、指標等を踏まえた「施策の評価」

◎：順調	(参考) 前年度の評価 —
------	------------------

3 事業の指標・進捗状況・課題・今後の方向性

●スタートアップの成長支援

創業環境の充実				
指標	初期値	最新値	目標値	達成状況
「Fukuoka Growth Next」が支援したスタートアップの資金調達額	約 82 億円	約 264 億円	100 億円	A
【進捗状況】				
・ 官民共働型スタートアップ支援施設「Fukuoka Growth Next」において、起業相談・開業手続き支援などを行うスタートアップカフェの運営と、資金調達・販路拡大など急成長を目指す企業への成長支援を一体的に実施し、創業準備期から成長フェーズまで一貫通貫で支援を行っている。				
【課題】				
・ スタートアップの事業がさらに加速できるよう、企業を取り巻く環境や状況に応じた支援内容の精緻化と充実が求められている。				
【今後の方向性】				
・ 支援対象のスタートアップをネットワーク化し、Fukuoka Growth Next 入居企業に限定せず、資金調達や販路拡大に向けた支援を実施するほか、企業を取り巻く環境や状況に応じた集中支援を行うプログラムを提供することで、市内スタートアップのより高い成長を目指す。				

グローバルスタートアップの推進〈再掲8-2〉				
指標	初期値	最新値	目標値	達成状況
スタートアップビザ申請	18 件 (2023 年度)	36 件	20 件	A
【進捗状況】				
・ 海外スタートアップ拠点との連携を活かした国際ビジネスマッチングイベントの開催や、海外進出を目指すスタートアップを対象とした海外展開支援プログラム等の実施などにより、グローバルに活躍できる創業の環境づくりを推進した。 ＊国際ビジネスマッチングイベント参加者数 R7n：約 12,000 人 ＊国際ビジネスマッチングイベント共同開催イベント数 R7n：約 70 件				
・ 海外のスタートアップや投資家等に向け、WEB、SNS にて情報を発信。				
・ 経済産業省の「外国人起業活動促進事業（スタートアップビザ）」等を活用し、外国人起業家の創業支援を実施した。				
【課題】				
・ 市内スタートアップの成長には海外展開が必要である。				
【今後の方向性】				
・ 地域コミュニティや海外拠点との連携を生かしたビジネスマッチング支援や、イベントの開催、出展に加え、イベントにおける商談成果の最大化に向けた伴走支援などにより、グローバルに活躍できる創業の環境づくりを促進する。				

多様な職業体験機会等の創出（起業）〈再掲2-4〉				
指標	初期値	最新値	目標値	達成状況
小学生ものづくり体験講座参加児童数	383 名	398 名	現状維持 (400 名程度)	A
体験型プログラム参加者数	－	473 人	6,600 人	C
【進捗状況】				
- 子どもたちが将来に夢や希望を持ち、新しいことにチャレンジする意欲を育成するアントレプレナーシップ教育として、様々な職業に従事する方の講話の動画を活用した「職業探究プログラム（小学校）」と「未来を切り拓くワークショップ（中学校）」を実施。 - 社会人講師による講話「ゆめナビ授業」を小学校 10 校で実施。 - 全中学校において、学校や地域の状況に応じて期間を設定し、2 年生を中心に職場体験学習を実施。関係機関と連携し、職場開拓や広報・啓発活動等を支援。 - 福岡市内の学校を対象に、ワークショップ形式で起業家マインドに触れる 1 コマ完結の出張授業を実施。				
＊参加者、見学者（R7n）				
学校名	学年	参加者数	見学者（教員）	
舞鶴小学校	6 年	122 名	5 名	
福岡女子高等学校	1～3 年	67 名	8 名	
福翔高等学校	1 年	248 名	4 名	
東光中学校	1、3 年	91 名	8 名	
将来の仕事として関心を持てるよう、小学生のものづくり体験講座や、中高生を対象とした技能職体験等を実施。				
＊小学生ものづくり体験講座参加児童数 R6n：383 名 → R7n：398 名				
都市インフラの役割や建設業の魅力を知ってもらうための技術体験イベントを開催。				
＊R7n：来場者 約 14,600 人（2 日間累計、保護者等含む）				
地場企業等の事業者から、職業体験などの多様な教育プログラムを募集し、福岡市内の中学校・高校の授業時間等で活用する取組みを実施した。				
＊教育プログラム数 R7n：40 件				
＊プログラム実施数 R7n：14 件 ＊2 学期から実施				
【課題】				
- アントレプレナーシップ教育については、小中学校を通した 9 年間でチャレンジ精神を身に付けるための、系統的かつ継続的な教育課程の編成と教育内容の工夫・改善を図る必要がある。 - 職場体験について、生徒一人ひとりの興味や関心などに応じた主体的な活動となるよう、実施方法などについて引き続き検討が必要。 - 技能職においては、後継者の不足が課題である。 - 技術体験イベントについては、想定を大きく上回る来場者数となり、先着順や抽選制などの一部コンテンツでは体験できない状況となっていたことから、事前案内の充実や運営面の改善が必要である。 - 中高生に多様な職業体験等の機会を創出するため、教育プログラムの充実に取り組む必要がある。 - 中学校・高校におけるさらなる教育プログラムの活用を促す必要がある。				
【今後の方向性】				
- アントレプレナーシップ教育について、小中で連携して取り組むことができるよう、全小中学校の担当者を対象とした説明会を開催し、授業案やワークシートなどの活用方法や各校種の好事例を共有する。 - 学習に活用できる企業等の情報を集約し、児童生徒による職業情報の収集や、教員による出前授業の選定等を支援する仕組みを検討する。 - 職場体験について、生徒の勤労観・職業観の育成のために、体験前後の学習の充実を含め、計画的・組織的な実施となるよう学校に周知していく。 - 小学生のものづくり体験や、ホームページを活用した若者へのものづくりの魅力発信などにより、技能職の認知度向上と地位の向上を図り、後継者発掘・育成を支援していく。 - 技術体験イベントについては、広報（出展内容や制限等の事前案内）の充実を図るとともに、一人でも多く子どもたちが体験できるような体験コンテンツの企画など運営面の改善に努める。				

- ・中高生向け教育プログラムの充実のため、プログラム募集について市のホームページでの広報を行うとともに、業界団体への周知協力依頼や委託事業者による企業等への働きかけ等を行っていく。
- ・中学校・学校におけるさらなる教育プログラムの活用のため、学校側のニーズを踏まえたプログラムの構築や改善支援を引き続き実施していく。

●先端技術の活用などによる社会課題の解決

社会課題解決に向けた民間提案支援				
指標	初期値	最新値	目標値	達成状況
mirai@における相談・提案件数（累計）	1,170 件	1,337 件	1,570 件	A
【進捗状況】 ・H30.5 に公民連携ワンストップ窓口「mirai@（ミライアット）」を設置。 ・AI や IoT など先端技術を活用した実証実験などの民間提案に対する支援や、公共調達を推進することにより、スタートアップなどが持つ先端技術の社会実装を促進。				
【課題】 ・民間企業等との公民連携事業の推進にあたっては、社会課題や行政課題の解決等の促進に繋がるよう、より実装を見据えて取り組んでいく必要がある。				
【今後の方向性】 ・引き続き、「mirai@（ミライアット）」を通して、民間企業等の提案を支援することにより、社会実装を促進し、社会課題の解決等に取り組む。				

ソーシャルスタートアップの成長支援				
指標	初期値	最新値	目標値	達成状況
支援件数（累計）	10 社	19 社	50 社	B
【進捗状況】 ・ふるさと納税制度を活用し、社会課題解決を目指すスタートアップの経営基盤強化にかかる取り組みを支援した。 ＊支援件数 R6n：10 社 → R7n：9 社				
【課題】 ・引き続き、ソーシャルスタートアップの経営基盤強化をはかるとともに、さらなる成長に向けた支援を行っていく必要がある。				
【今後の方向性】 ・ソーシャルスタートアップの経営基盤強化とあわせて、専門家らによる伴走支援によりさらなる成長を支援することで、社会課題や地域課題の解決に積極的に取り組む事業者の創出・育成を図る。				

施策 7-4 産学官民が連携した知識創造型産業などの振興

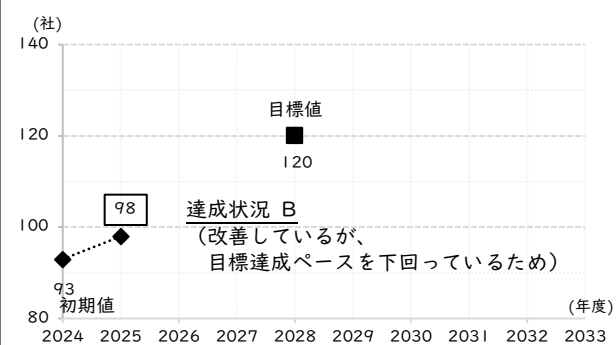
<取組みの方向性>

産学官民の連携を推進し、大学や研究機関の集積による豊富な人材と技術シーズを生かした研究開発拠点の形成を推進するとともに、IT やナノテクノロジー等の先端技術を活用した産業の振興や、エンジニアの集積・交流などに取り組めます。

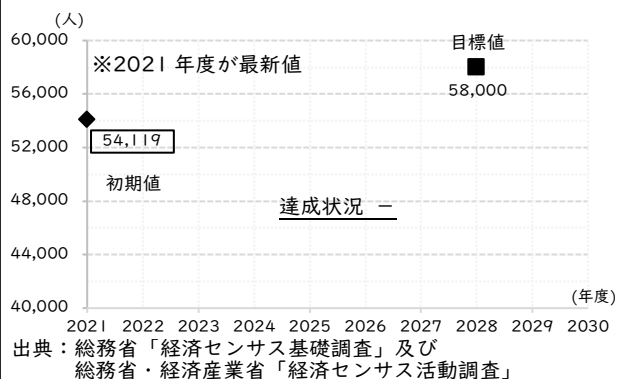
また、水素の社会実装をはじめとする脱炭素関連産業や、福岡市の魅力となるクリエイティブ関連産業の振興に取り組めます。

I 施策の指標

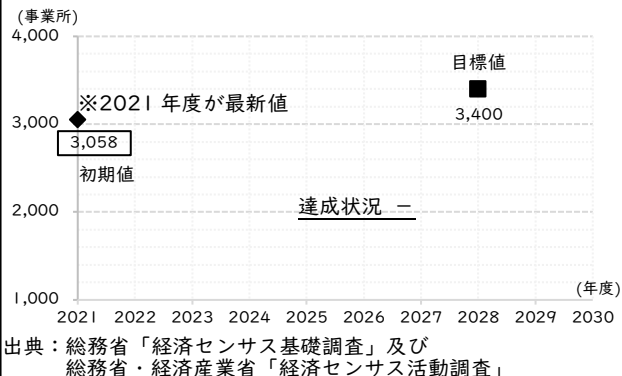
①九州大学発の研究開発型スタートアップ数(累計)



②情報関連産業従業員数



③クリエイティブ関連産業事業所数



<指標の分析>

①については、九州大学及び九大 OIP と連携し、有望な研究シーズの事業化を支援するとともに、「産学連携交流センター」等を中心として、研究開発型スタートアップの創出・成長支援に取り組んだ結果、前年と比べ増加している。

②については、情報関連産業従業員数は、エンジニアフレンドリーシティ福岡の取組みを開始した2018年以降、継続して増加しており、エンジニアコミュニティの活動支援や開発コンテストの実施、人材育成・確保に向けた取組みなどにより、知識創造型産業の振興及び「エンジニアが集まる、活躍する、成長する街、福岡」の実現に向けた取組みが着実に進展しているものと考えられる。

③については、クリエイティブ関連事業所数は、コンテンツ振興課の新設などクリエイティブ関連産業の振興を強化した2012年以降継続して増加しており、ゲーム分野のインターンシップやコンテストの実施、クリエイティブ関連イベントの開催などによって、クリエイティブ関連産業の振興及びエンターテインメント都市づくりの取組みが順調に進んでいるものと考えられる。

2 事業の進捗状況、指標等を踏まえた「施策の評価」

○：概ね順調	(参考) 前年度の評価 —
--------	------------------

3 事業の指標・進捗状況・課題・今後の方向性

●研究開発拠点の形成

九州大学周辺における研究開発拠点の形成				
指標	初期値	最新値	目標値	達成状況
市内大学の民間企業などとの共同研究件数	1,094 件 (2023 年度)	1,161 件	1,200 件	A
【進捗状況】				
・ 九大新町の「産学連携交流センター」及び研究開発次世代拠点「いとLab+」(R5n 開業) を中心として、研究開発拠点の機能強化を図るなど、産学連携の推進を図った。				
【課題】				
・ 九大新町を中心に、産学連携を推進する環境の形成が進んでおり、引き続き、九州大学と連携した新産業・新事業の創出に取り組む必要がある。				
【今後の方向性】				
・ 九大新町の「産学連携交流センター」及び「いとLab+」を中心として、研究開発型企业等の成長支援や、大学の研究シーズを活用した事業化の支援に取り組む。				

九州大学における研究成果の事業化支援				
指標	初期値	最新値	目標値	達成状況
支援した研究成果の件数	—	9 件	120 件	C
【進捗状況】				
・ 九州大学や福岡県、金融機関とともに、「九大イノベーションチャレンジファンド有限責任事業組合」を立ち上げ、大学の有望な研究成果9件を選定し、事業化支援を行った。				
・ 支援した研究成果のうち、すでに1件が起業に結び付いており、事業は着実に進展している。				
【課題】				
・ 研究成果の社会実装には、相応の費用と長い期間を要することから、成長性の高い研究開発型スタートアップを持続的に創出し、成長につなげていくためには、引き続き、九州大学など関係機関と連携した取り組みが必要である。				
【今後の方向性】				
・ 九州大学の有望な研究成果に対し、事業化検証や社会実装に向けた資金及びノウハウを供給することで、成長性の高い研究開発型スタートアップの持続的な創出を図っていく。				

九州先端科学技術研究所による産学連携の推進
【進捗状況】
・IT やナノテクノロジー等の分野における先端科学技術による産学連携の推進及び地場企業等の技術力向上に取り組んだ。
【課題】
・引き続き、SRP 地区や福岡市産学連携交流センターにおいて産学連携及び地場企業等の技術力向上を推進する必要がある。
【今後の方向性】
・引き続き、IT やナノテクノロジー等の分野における先端科学技術による産学連携の推進及び地場企業等の技術力向上に取り組む。

●知識創造型産業の振興

エンジニアの集積・交流の促進				
指標	初期値	最新値	目標値	達成状況
エンジニアコミュニティ勉強会等のイベント参加者数	4,695 人	6,651 人	5,500 人	A
支援の結果、採用に至った高度外国人 IT エンジニアの人数	—	7 人	5 人	A
【進捗状況】				
・エンジニアの交流拠点「エンジニアカフェ」では、コミュニティマネージャーを中心に、エンジニアからの相談対応やコミュニティ支援、イベント等の開催を実施した。 ＊コミュニティ勉強会等参加者数 R6n：4,695 人 → R7n：6,651 人 ＊相談件数 R6n：517 件 → R7n：580 件 ＊来場者数 R6n：19,614 名 → R7n：21,931 人				
・技術的な開発と事業開発の両面を学ぶことで、エンジニアの起業をサポートするプログラムを実施した。 ＊修了者数 R7n：26 人				
・福岡のエンジニアを取り巻く環境の充実や、エンジニアコミュニティ文化の発展に貢献する取組み等を行う者を表彰する「エンジニアフレンドリーシティ福岡アワード」を実施した。				
・地場企業からメンター派遣などの協力を得て、地元の学生を対象に人材育成プログラムを実施した。 ＊修了者数 R6n：26 人 → R7n：32 人				
・学生やエンジニア等の技術力向上を促進するとともに、コミュニティ間の交流の場を作ることで、時代のニーズに応じたプロダクトを生み出すクリエイティブな人材の発掘及び育成を図るため、開発コンテスト「Engineer Driven Day（エンジニアドリブンデイ）」を開催した。				
・IT 及び半導体関連産業の外国人エンジニアの早期入国を可能とし、企業におけるプロジェクトの早期着手によるさらなるイノベーションの促進を支援するエンジニアビザ制度を運用するとともに、福岡市の地場企業を対象に高度外国人 IT エンジニア採用支援事業を実施した。				
【課題】				
・「IT 人材需給に関する調査」（経済産業省 H31.3）で 2030 年までに約 45 万人が不足する（中位シナリオ）と試算されているように、IT 人材は全国的に不足しており、福岡市においても同様である。				
・エンジニアによる新サービス・製品の創出に向けて、若手エンジニアの掘り起こしや、エンジニアの育成・成長に繋がる先端技術に関する支援体制の強化が必要。				
【今後の方向性】				
・「エンジニアカフェ」を中心に、新たなコミュニティの組成やコミュニティ間の交流等を促し、エンジニアのネットワークづくりやコミュニケーションをより活性化させ、エンジニアが学び成長し、活躍できる機会を増やすなど、エンジニアを取り巻く環境の充実を図る。				
・「エンジニアカフェ」に先端技術やビジネス等の知見に長けたスタッフを配置し、サービス設計支援を行うとともに、エンジニアの起業をサポートするプログラムを通して、新サービス・新製品の創出促進を図る。				
・開発コンテストやデジタル人材育成プログラムを通して、エンジニア人材の育成・発掘を行うとともに、エンジニアビザを効果的に活用し、海外 IT 人材の集積を図る。				

半導体関連産業の振興
【進捗状況】 半導体関連産業の振興の方向性については、福岡市の特性を活かしつつ、設計・開発を手がけるファブレス企業を中心に関連企業の集積を進める方針とし、その内容を議会に報告した。
【課題】 集積した半導体関連企業が定着、成長できる環境の構築に向けた取り組みが必要。
【今後の方向性】 半導体関連企業が分野や職種を越えて交流することで、新しい製品やサービスのアイデアが創出できるイベント等を通じて、企業の定着や成長を支援する。

●脱炭素関連産業の振興

水素の利活用の推進				
指標	初期値	最新値	目標値	達成状況
水素利活用件数	8件	7件	12件	D
【進捗状況】 - 下水バイオガス由来の水素ステーションの運営やFCモビリティの導入促進、まちづくりへの水素実装など、「水素リーダー都市プロジェクト」の取り組みを推進する。 - R7nは、Moving e・FC給食配送車・FCごみ収集車の運用など、計7件の水素利活用に取り組むとともに、Moving eや給食配送車等を活用し、水素の普及啓発を実施した。 ＊水素利活用件数 R6n：8件（初期値） → R7n：7件				
【課題】 - 水素は二酸化炭素を排出しないクリーンなエネルギーとしての期待が高いが、コスト高などの問題があるため、大学や企業と連携し技術開発や水素利用の促進を図る必要がある。 - さらに、水素利用を広く普及させていくためには、安全性や意義などについて、市民の理解を深めていくことが必要である。 - 九州大学箱崎キャンパス跡地への水素実装にあたっては、まちづくりの進捗等を踏まえながら取り組む必要がある。				
【今後の方向性】 - 都市におけるエネルギーの地産地消のモデルケースとなるように、下水バイオガス由来の水素ステーションの運営を行う。 - 民間事業者と連携し、FCモビリティの導入・促進など、水素需要の創出に向けた活動を行う。 - Moving eや給食配送車等を活用し、水素の普及啓発に取り組む。 - 九州大学箱崎キャンパス跡地において、水素供給パイプラインの整備や水素ステーション等の事業者公募に向けた取り組みを実施する。				

脱炭素経営・ビジネスの促進〈再掲7-1〉				
指標	初期値	最新値	目標値	達成状況
脱炭素化に取り組む地場中小企業の割合	19.2%	12.6%	50%	D
【進捗状況】 ・脱炭素に資する環境ラベル等を取得している市内中小企業に対し、展示会出展等による販路拡大を支援した。 ＊支援企業数 R7n：13 社 ＊脱炭素経営セミナー参加者数 R7n：224 人				
【課題】 ・脱炭素化に向けた動きが産業界全体に広がる中、市内中小企業も、取引先企業や金融機関、消費者などから調達、製造、流通等様々な場面における CO2 排出削減に向けた取組みや脱炭素経営への転換が求められている。				
【今後の方向性】 ・企業が脱炭素に取り組むことは、光熱費・燃料費の低減につながるだけでなく、認知度向上や自社製品の競争力強化、人材獲得力の強化などにつながることから、先駆的に取り組む中小企業の販路拡大と、脱炭素分野に関心の高い人材の確保・定着を一体的に支援する。				

●クリエイティブ関連産業の振興

クリエイティブ関連産業の振興				
指標	初期値	最新値	目標値	達成状況
人材育成関連事業の参加人数	870 人	1,489 人	1,800 人	A
【進捗状況】 ◆ゲーム分野 ・産学官（GFF＋九州大学＋福岡市）で組織する福岡ゲーム産業振興機構等により、ゲームインターンシップ、ゲームコンテストなどの人材育成事業や広報事業を実施。 ＊ゲーム関連産業事業所数 R6n：38 社（R7.1 現在）→ R7n：38 社（R8.1 現在） ＊ゲーム関連産業従業者数 R6n：2,642 人（R7.1 現在）→ R7n：2,693 人（R8.1 現在） ◆アニメ分野 ・アニメ関連企業の人材確保・育成や「アニメ都市」としての認知度向上を目的としたイベント等を開催。 ◆映画分野 ・フィルムコミッションを通じた撮影支援を行うとともに、地元映画監督の発掘・育成を実施。 ◆ファッション分野 ・地場ファッション産業の活性化に向け、関係団体等との連携を実施。 ◆音楽分野 ・「福岡ミュージックマンス」に参画し、音楽都市としてブランディングを図るための共同プロモーションを実施。また、音楽産業振興基金を運営した。 ・福岡音楽都市協議会と連携し、ビジネス活性化に向けた取組みや、音楽関連情報の情報発信、人材育成事業を実施。 ◆デザイン分野 ・デザイン関連団体などとの連携のほか、福岡県産業デザイン協議会事業へ参画し、ワークショップや販路拡大支援を実施。				
【課題】 ・クリエイティブ関連産業は、国のクールジャパン政策にも見られるように更なる成長が見込まれる中、福岡市内のクリエイティブ関連事業者からは人材不足の声が上がっている。市内クリエイティブ関連産業の更なる振興を進めていくためには、優秀な人材を福岡で育成することが重要。				
【今後の方向性】 ・クリエイティブ関連産業は更なる成長が見込まれ、本市の特性にもあった次代の成長エンジンとなりうる産業分野であり、産学官と連携しながら引き続き振興する。 ・ゲームをはじめ、アニメ、映画、ファッション、音楽、デザインなどクリエイティブ関連産業を包括的に捉え、さらなる振興を図るとともに、海外展開や集客等を促進する。 ・福岡ゲーム産業振興機構等の事業を通じ、企業が求める人材の育成に努める。 ・上記事業を通じて、市内のクリエイティブ関連産業のさらなる振興を図り、若くて優秀な人材の創出に努める。				

クリエイティブ体験イベントの開催〈再掲5-4〉				
指標	初期値	最新値	目標値	達成状況
市民や来訪者、クリエイティブ事業者が参加できるイベントの開催件数	18 件	20 件	25 件	A
【進捗状況】 ・産学官で構成するクリエイティブ福岡推進協議会（クリエイティブ・ラボ・フクオカ）を推進母体とし、異業種間の交流・連携を促進。 ・クリエイティブ関連イベントでは、アワードを中心としたクリエイティブ人材の創出に加え、エンタメコンテンツの展開により「クリエイティブ・エンターテインメント都市・ふくおか」を広く発信。 *R7n 来場者数：12,000 人 ・ゲームやアニメ、音楽分野においても、交流会やイベント等を実施し、指標の開催件数は初期値より増加している。				
【課題】 ・効果的に事業を行うため、事業者ニーズを把握しながら、クリエイティブ関連事業者の参加機会拡大に取り組む必要がある。				
【今後の方向性】 ・今後もクリエイティブ関連産業のさらなる成長・ビジネス拡大を図るとともに、「クリエイティブ・エンターテインメント都市・ふくおか」の実現に向け、クリエイティブ関連イベントなどの事業を実施する。				

アーティストの成長支援の充実				
指標	初期値	最新値	目標値	達成状況
「アーティストカフェフクオカ」が携わったアーティストと民間企業のマッチング件数(累計)	80 件	142 件	200 件	A
【進捗状況】 ・アーティストカフェフクオカでは、民間企業等とアーティストのマッチングを進めており、今年度は、企業向けの情報発信のほか企業向けのイベント開催を行った。また、企業マッチングを促進するために、WEB サイトの「アーティスト紹介」ページを整備し、登録アーティストの増加を図るとともに、登録アーティストを対象に公募形式を取り入れるなど、アーティストの交流機会や活動機会を広げる取り組みを行った。				
【課題】 ・アーティストカフェフクオカについては、民間企業等に対して、施設自体の認知は進んできてはいるものの、機能までが十分に伝わっているとは言い難く、積極的な情報発信が必要である。				
【今後の方向性】 ・マッチング事例の情報発信や、民間企業等がアーティストと協業する意義を伝えることを目的としたトークイベント等を積極的に開催し、企業等の理解を広げていく。				

